

高千穂町文化財調査報告書第9集

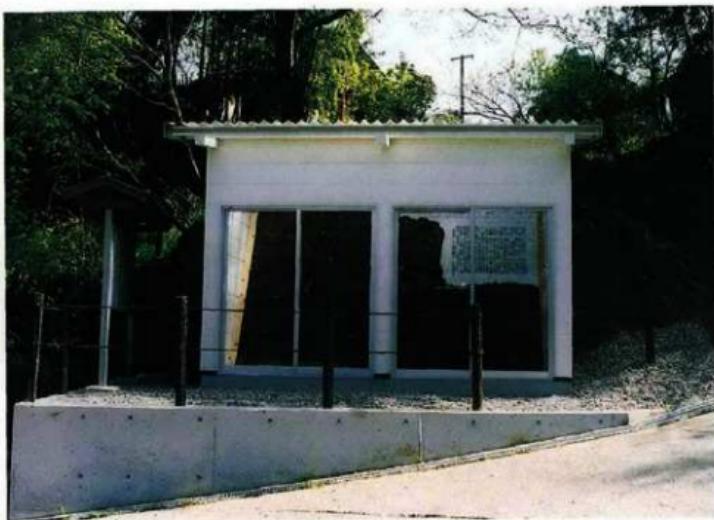
陣内遺跡保存整備報告書



1992. 3

宮崎県西臼杵郡高千穂町教育委員会





陣内遺跡全景

序

この報告書は、平成3年度に宮崎県教育委員会の補助を受けて実施した陣内遺跡保存整備事業の記録です。

陣内遺跡は、縄文時代の遺跡として県内はもとより全国的にも知られ、研究者をはじめ史跡めぐりや歴史の一環として訪れる人も多く、高千穂地方の歴史に欠かせぬ史跡ですが、現況は竹が生い茂り遺跡の状況を確認するのも困難な状態にあり、平成2年度より保存整備について専門家の指導をいただき検討してまいりました。

本年度、県指定史跡としての有用な資源を活かすため、保存整備を行い、展示施設を設けましたが、本遺跡の活用が社会教育・学校教育はもとより、地域活性化に少しでもお役に立てば幸いです。

尚、本書の刊行にあたり、現地調査から展示作業、報告書発刊までご苦労いただきました県文化課の北郷泰道氏、県総合博物館埋蔵文化財センターの永友良典氏に深甚の謝意を表するとともに、地元各位の積極的なご協力に対し、厚く御礼申し上げます。

平成4年3月

高千穂町教育委員会

教育長 安 田 繁

例　　言

1. 本書は、高千穂町教育委員会が県費補助をえて実施した、
県指定史跡「陣内遺跡」の保存整備事業についての報告書
である。
2. 整備事業に伴う発掘調査は、町教育委員会が主体となり、
県文化課主査北郷泰道が担当した。
3. 土層剥ぎ取り及び保存処理等は、北郷ほか県総合博物館埋
蔵文化財センター主査永友良典が担当し、町教育委員会職
員が協力して当たった。
4. 本書の執筆及び編集には、町社会教育課田尻隆介と北郷が
当たった。

本文目次

I 整備に至る経緯	5
II 整備の目的と過程	
1. 整備の目的	6
2. 対象地の遺跡的性格	6
3. 土層剥ぎ取りの過程	7
4. 覆屋等の施設	7
5. 阵内遺跡位置図	8
6. 整備過程図版	9～14
III 三田井地区遺跡分布図	
1. 三田井地区遺跡分布図	16
2. 三田井地区遺跡地名表	17～20
VI 高千穂町の出土遺物	
1. 阵内遺跡出土品	22～23
2. 高千穂町の弥生土器	24～25
3. 横穴墓出土遺物	26～30

I 整備に至る経緯

陣内遺跡は、三田井中心街から北にのほること約1km、五ヶ瀬川支流が開析した小台地の北斜面にある。宮崎県の代表的な縄文遺跡として訪れる人も多く、文化財の保存啓発のうえから、見学できる史跡として早急に整備し、活用を図ることが数年前からの課題であった。幸い、県教育委員会文化課も県指定史跡の保存整備については懸案事項であり、平成元年度に陣内遺跡の保存整備について協議の機会を得ることができ、平成2年度に町で整備に伴う事前調査等に取り組み、平成3年度に県の補助を受け保存整備事業を実施することになった。

平成2年度は鹿児島県指宿市の橋牟礼遺跡の保存整備状況を視察するとともに、奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター遺物処理研究室の沢田正昭室長に現地調査を依頼し、指導をいただいた。

平成3年度、土地所有者21名（共有地）に事業の計画説明会を行い、保存整備についての全面的な承諾を得ることができ、県文化課北郷泰道主査と県総合博物館埋蔵文化財センター永友良典主査を調査員として、9月18日から3月31日まで事業を実施した。

組織

高千穂町教育委員会

教 育 長	安 田 繁
教 育 次 長	久 岩 道 雄
社会教育課長	興 相 初
課長補佐	大 賀 亨
主任主事	田 尻 隆 介（担当）
社会教育主事	宮 内 浩二郎
主 事	興 相 貴 俊
	拔 屋 洋 子
	吉 村 順 正
調 査 員	北 郷 泰 道（県教育庁文化課主査）
	永 友 良 典（県埋蔵文化財センター主査）
工 事 設 計	伊 木 舟 生（町建設課建築係長）
	飯 干 淳（町建設課土木主任技師）

Ⅱ 整備の目的と過程

1. 整備の目的

陣内遺跡は、縄文時代後期を中心とした多量の土器類の出土はもとより、昭和27年の石棒、昭和35年の土偶の出土により、全国的に知られる縄文時代の代表的な遺跡となった。

その結果、遺跡の一角は昭和51年に県の史跡に指定されている。

しかし、その後の保護及び整備の状況は十分といいがたく、竹に覆われ、遺跡の状態をつぶさに観察することは困難な現況を示していた。(P.L. 1)。

本年度の事業は、以上の現状を踏まえ、遺跡の状態を観察することができ、社会教育・学校教育及び観光面にも活用できる整備を目指して計画された。

作業は、一面に覆った竹の伐採から着手した(P.L. 2)。

2. 対象地の遺跡的性格

昭和42年には、指定地の西の台地上に所在する第2遺跡の調査が行われたが、昭和43年、昭和55年の調査は、いずれも道路整備等の開発工事に伴い指定地周辺で実施されている。

それらの成果から、陣内遺跡のおおよその全体像は、西及び東の緩やかな台地上に中心的な集落が営まれ、指定地部分は、台地下に向けて廃棄された多量の土器の堆積層として形成されたものと理解される(P.L. 3)。そして、それが県内出土唯一の石棒・土偶という「第2の道具」を伴うものであることは、廃棄が単なる「ゴミ捨て」の概念を超えたものであることを教えてくれる。

その堆積層は、表土層以下大きくは褐色土層と、炭化物を混入する暗褐色土層とに分層することが出来るが、出土土器に大きな時期差を認めることは出来ず、各時期が混在する(P.L. 4・5)。このことは、土器が廃棄されながら、たびたび土砂の崩壊等による擾乱が、地点に生じていたことを示している。

また、今回の整備に伴う発掘調査でも、多量の縄文土器及び石器等の出土があった。その中で、最も注目されたのは、一見土偶にも見ることの出来る土製品である(表紙写真)。

表面には、ヘラ搔きによる腹部及び広げた腕の表現ともみられる線刻が施されているが、裏面の整形は荒く、二本の棒状の粘土を三角状に組み、その間に板状の粘土を貼りつけた状態が観察される。香炉形土器等複雑な形状を持つ土器の一部とみておきたい。

3. 土層剥ぎ取りの過程

整備の基本方針は、遺跡の状態が誰にでも、何時でも見れることである。指定地の特徴が多量かつ厚い土器の堆積層であることからすれば、その土器の堆積状態を「土層転写」の手法で表現することであった。そのため、まず剥ぎ取り面を決定し、平滑に土層表面の整形を実施した（P L . 6）。

つぎに、エポキシ系合成樹脂「トマック」を剥ぎ取り面に塗布する（P L . 7）

トマックを塗布したのち、寒冷紗を補強剤として張りつけ（P L . 8）、さらにその上からトマックを塗布する。

今回は、一昼夜乾燥後、剥ぎ取り面の大きさの関係から、二分割して剥ぎ取ることにした。（P L . 9）。

剥ぎ取り面には、予想以上に多量の土器片が付着しており（P L . 10）、改めて陣内遺跡の土器量の多さが認識された。

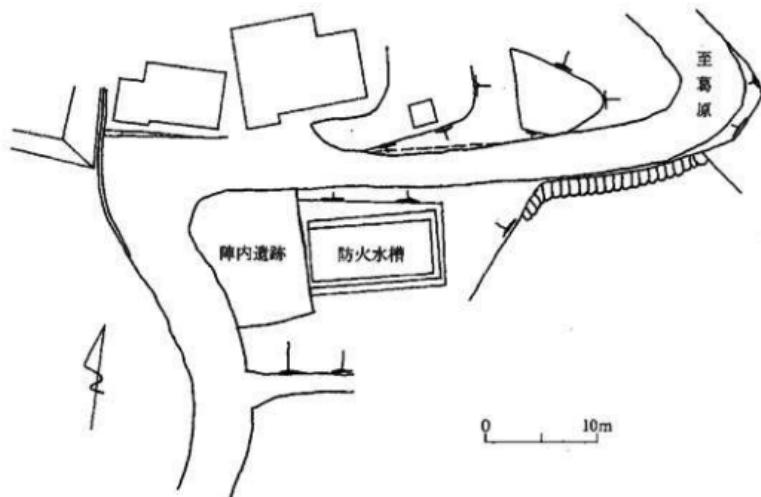
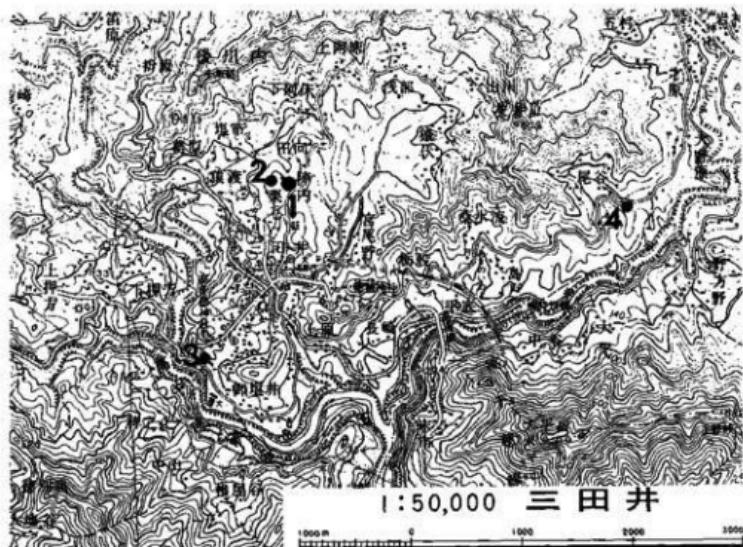
剥ぎ取り面を乾燥させ、不要な土、竹の根等を払い（P L . 11）、さらに水洗いし不要な土等を取り除き、転写表面にイソシアネート系合成樹脂「サンコールSK-50」を塗布し、表面の処理を行った（P L . 12）。

4. 覆屋等の施設

道路及び防火水槽の遺跡面は擁壁工事を行い、全体に自然の景観を配慮した防護柵を巡らせ、覆屋については水抜きのため土層断面より1mの空間を保ち設置した。

覆屋に剥ぎ取り面と説明板を展示し、強化硝子を取り付け、遺跡の状況が観察できるようにした（巻頭カラー写真）。

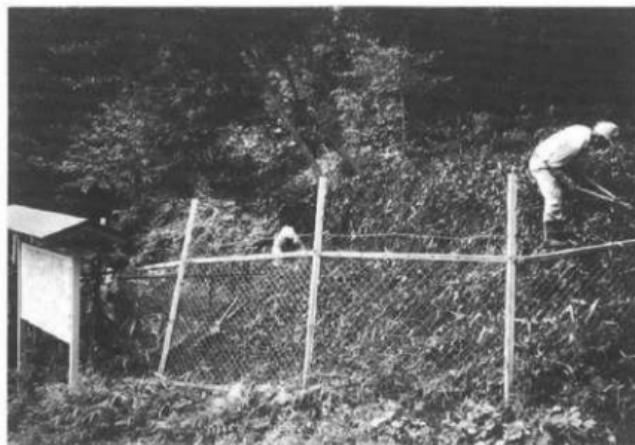
5. 阵内遺跡位置図



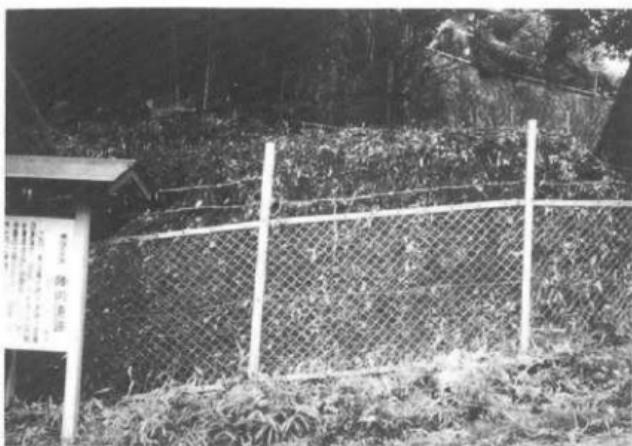
6. 整備過程図版



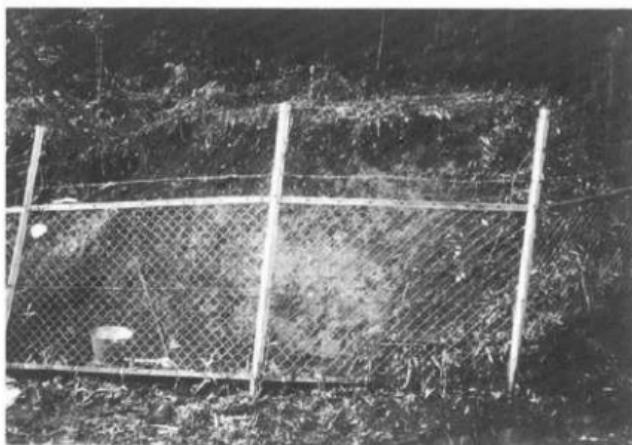
PL. 1 竹に覆われた整備前の状態



PL. 2 竹藪の伐採



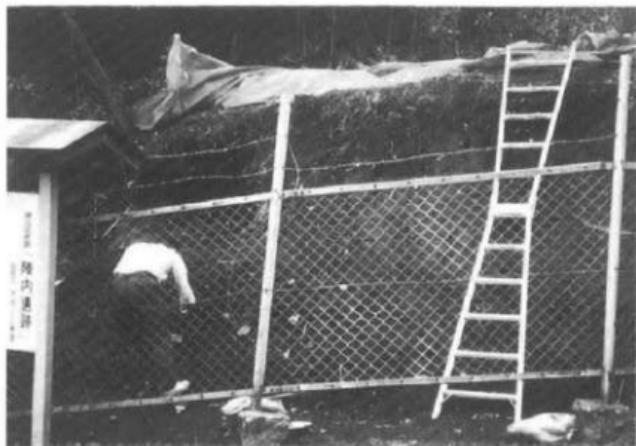
PL. 3 伐採後の状態



PL. 4 土層断面の状態



PL. 5 土器片の出土状況



PL. 6 土層断面の整形



PL. 7 合成樹脂の塗布



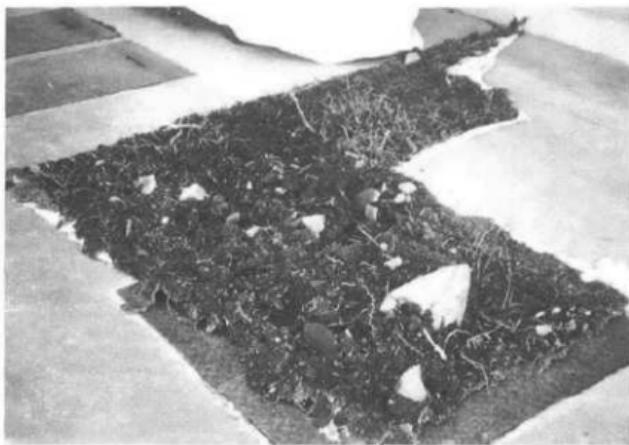
PL. 8 寒冷紗の貼り付け



PL. 9 剥ぎ取り面の分割



PL. 10 剥ぎ取り作業



PL. 11 転写面の乾燥



PL. 12 転写面の樹脂加工

三田井地区遺跡分布図

三田井地区遺跡分布図

1.三田井地区遺跡分布図



2.三田井地区遺跡地名表

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代
1001	高千穂 1 号 墳	大字三田井字御塙井	古墳(円)	古墳時代
1002	高千穂 5 号 墳	大字三田井字寺追	古墳(円)	古墳時代
1003	高千穂 31 号 墳	大字三田井字吾平原	横 穴	古墳時代
1004	吾平原 横 穴 群	大字三田井字吾平原	横 穴	古墳時代

(号 数)

26・27	大字三田井字吾平原	横穴 2
28	大字三田井字吾平原	横穴 1
29・30	大字三田井字吾平原	横穴 2
一本木	大字三田井字吾平原	横穴 1
32~40	大字三田井字吾平原	横穴 9
41	大字三田井字吾平原	横穴 1

1005	高千穂 45 号 墳	大字三田井字尾追原	古墳(前方後円)	古墳時代
1006	高千穂 9 号 墳	大字三田井字栗毛	古墳(円)	古墳時代
1007	高千穂 10 号 墳	大字三田井字栗毛	古墳(円)	古墳時代
1008	高千穂 6 号 墳	大字三田井字宮ノ前	古墳(円)	古墳時代
1009	塙市 横 穴 群	大字三田井字塙市	横 穴	古墳時代

(号 数)

7	大字三田井字塙市	横穴 1
8	大字三田井字塙市	横穴 1

1010	成木 横 穴 群	大字三田井字成木	横 穴	古墳時代
------	----------	----------	-----	------

(号 数)

22・23	大字三田井字成木	横穴 2
24	大字三田井字成木	横穴 1
20・21	大字三田井字池ノ川	横穴 2

1011	池ノ川 横 穴 群	大字三田井字池ノ川	横 穴	古墳時代
------	-----------	-----------	-----	------

(号 数)

17	大字三田井字池ノ川	横穴 1
18	大字三田井字池ノ川	横穴 1
19	大字三田井字池ノ川	横穴 1

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代
1012	善平古墳群	大字三田井字吾平	古墳	古墳時代

(号 数)

11・12	大字三田井字吾平	前方後円墳
13	大字三田井字吾平	横穴 1
14	大字三田井字吾平	横穴 1
15	大字三田井字吾平	円墳 1

1013	車追横穴群	大字三田井字車追	横 穴	古墳時代
------	-------	----------	-----	------

(号 数)

46・47	大字三田井字車追	横穴 2
25	大字三田井字吾平原	横穴 1
42	大字三田井字吾平原	横穴 1
43	大字三田井字吾平原	横穴 1
44	大字三田井字吾平原	横穴 1

1014	高千穂 48 号墳	大字三田井字尾谷	古墳(円)	古墳時代
1015	高千穂 55 号墳	大字三田井字桑水流	横 穴	古墳時代
1016	高千穂 3 号墳	大字三田井字柄又	横 穴	古墳時代
1017	高千穂 4 号墳	大字三田井字柄又	古墳(円)	古墳時代
1018	高千穂 16 号墳	大字三田井字長崎	古墳(円)	古墳時代
1019	高千穂 2 号墳	大字三田井字上原	古墳(円)	古墳時代
1020	高千穂 小学校 遺跡	大字三田井字尾迫原	散布地	縄文～弥生時代
1021	狹山 遺跡	大字三田井字狹山	散布地	弥生時代
1022	松能橋 遺跡	大字三田井字狹山	散布地	縄文～弥生時代
1023	高千穂高校 遺跡	大字三田井字神殿	散布地	縄文～弥生時代
1024	セベット 遺跡	大字三田井字御塙井	散布地	縄文～弥生時代
1025	淡路城跡	大字三田井字神殿御塙井	城 跡	中 世
1026	田口野第1 遺跡	大字三田井字田口野	散布地	縄文～弥生時代
1027	田口野第2 遺跡	大字三田井字田口野	散布地	縄文～弥生時代
1028	田口野第3 遺跡	大字三田井字田口野	散布地	縄文～弥生時代

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代
1029	荒立神社前遺跡	大字三田井字宮尾野	散布地	縄文～弥生時代
1030	宮尾野第1遺跡	大字三田井字宮尾野	散布地	縄文～弥生時代
1031	宮尾野第2遺跡	大字三田井字宮尾野	散布地	縄文～弥生時代
1032	宮尾野第3遺跡	大字三田井字宮尾野	散布地	縄文～弥生時代
1033	吾平原第1遺跡	大字三田井字吾平原	散布地	縄文～弥生時代
1034	吾平原第2遺跡	大字三田井字吾平原	散布地	縄文時代
1035	上原平遺跡	大字三田井字吾平原	散布地	縄文～弥生時代
1036	尾迫原遺跡	大字三田井字尾迫原	散布地	縄文～弥生時代
1037	陣内遺跡	大字三田井字車ノ追	散布地	縄文～弥生時代
1038	陣内第2遺跡	大字三田井字車ノ追	散布地	縄文～弥生時代
1039	田間遺跡	大字三田井字吾平	散布地	縄文～弥生時代
1040	春芽遺跡	大字三田井字春芽	散布地	縄文～弥生時代
1041	上阿床遺跡	大字三田井字上阿床	散布地	縄文時代
1042	下阿床遺跡	大字三田井字下阿床	散布地	縄文～弥生時代
1043	塙市遺跡	大字三山井字塙市	散布地	縄文時代
1044	池ノ川遺跡	大字三田井字池ノ川	散布地	縄文～弥生時代
1045	梅ノ木谷遺跡	大字三田井字梅ノ木谷	散布地	縄文時代
1046	宮ノ前第1遺跡	大字三田井字宮ノ前	散布地	縄文～弥生時代
1047	宮ノ前第2遺跡	大字三田井字宮ノ前	散布地	縄文～弥生時代
1048	柿ノ木水流遺跡	大字三田井字柿ノ木水流	散布地	縄文時代
1049	長畑第1遺跡	大字三田井字長畑	散布地	縄文時代
1050	長畑第2遺跡	大字三田井字長畑	散布地	縄文時代
1051	堂山遺跡	大字三田井字堂山	散布地	古墳時代
1052	梅木遺跡	大字三田井字梅木	散布地	縄文時代
1053	西原遺跡	大字三田井字西原	散布地	縄文～弥生時代
1054	大野原遺跡	大字三田井字大野原	散布地	縄文時代
1055	古城遺跡	大字三田井字古城	散布地	縄文～弥生時代
1056	龜山城跡	大字三田井字古城	城跡	中世
1057	弥宜ノ地遺跡	大字岩戸字弥宜ノ地	散布地	縄文時代
1058	堂ノ元遺跡	大字三田井字陣内	散布地	縄文～弥生時代

遺跡番号	名 称	所 在 地	種 別	時 代
1059	今 村 遺 跡	大字三田井字今村	散布地	縄文～古墳時代
1060	松 ノ 原 遺 跡	大字三田井字松ノ原	散布地	縄文時代
1061	長 追 遺 跡	大字三田井字長追	散布地	縄文時代
1062	尾 谷 遺 跡	大字三田井字尾谷	散布地	縄文時代
1063	梅 ノ 木 原 遺 跡	大字三田井字梅ノ木原	散布地	縄文時代
1064	尾 久 保 第 1 遺 跡	大字三田井字尾久保	散布地	縄文～弥生時代
1065	尾 久 保 第 2 遺 跡	大字三田井字尾久保	散布地	縄文～弥生時代
1066	桑 水 流 遺 跡	大字三田井字桑水流	散布地	弥生時代
1067	柳 又 第 1 遺 跡	大字三田井字柳又	散布地	縄文～弥生時代
1068	柳 又 第 2 遺 跡	大字三田井字柳又	散布地	縄文時代
1069	馬 門 遺 跡	大字三田井字馬門	散布地	縄文～弥生時代
1070	長 崎 第 1 遺 跡	大字三田井字長崎	散布地	縄文～古墳時代
1071	長 崎 第 2 遺 跡	大字三田井字長崎	散布地	縄文～弥生時代
1072	上 原 遺 跡	大字三田井字上原	散布地	弥生時代

高千穂町の出土遺物

（高千穂町立図書館蔵）

IV 高千穂町の出土遺物

1. 陣内遺跡出土品



土偶



石棒



石棒破片
(擁壁工事中出土)



縄文土器
器高 10.5cm



縄文土器
器高 11.0cm



縄文土器
器高 22.5cm



十字形石器他
長さ 11.5cm

(宮崎県総合博物館蔵)

2. 高千穂町の弥生土器



壺形土器（岩戸籠之戸）



壺形土器（岩戸籠之戸）



免田式壺形土器（上野柚木野）



弥生土器（三田井上原）



「工」字突带壺形土器
(田原薄糸平遺跡出土)



壺形土器 (薄糸平出土)

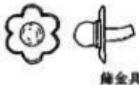
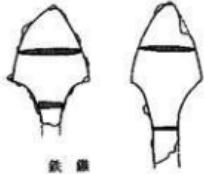
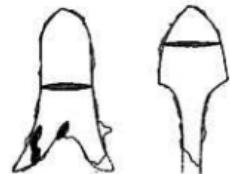
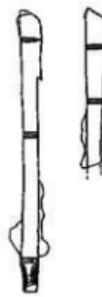
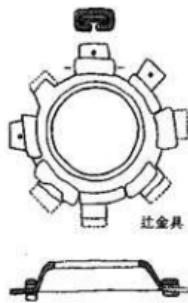
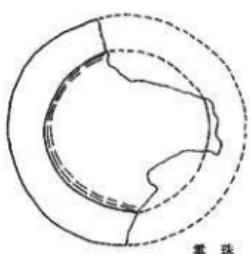
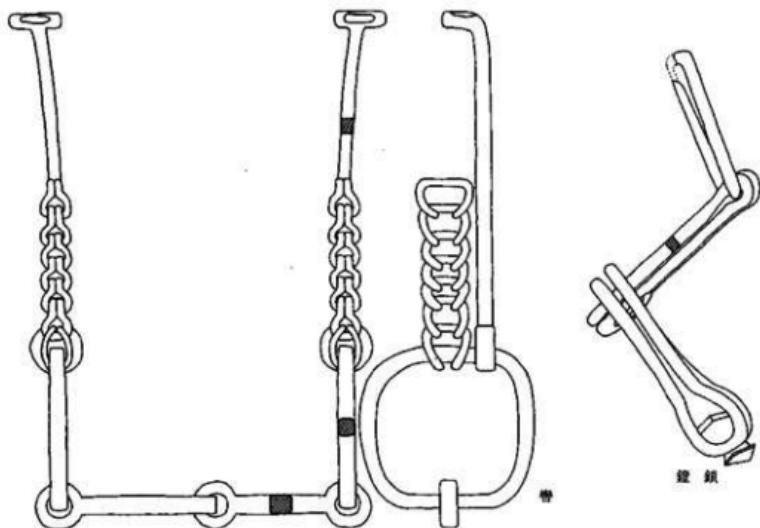


複合口縁壺形土器
(河内奥鶴出土)



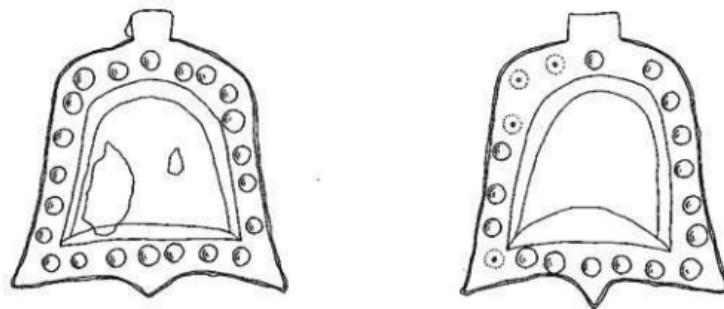
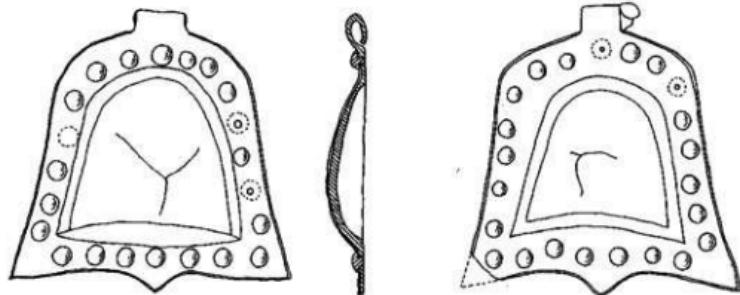
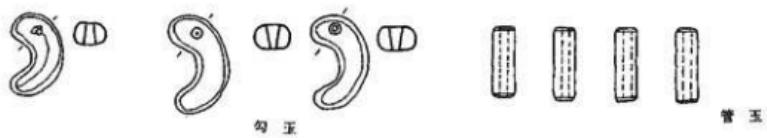
複合口縁壺形土器
(薄糸平出土)

3. 横穴墓出土遺物



一本木横穴出土遺物 (I)

0 10cm

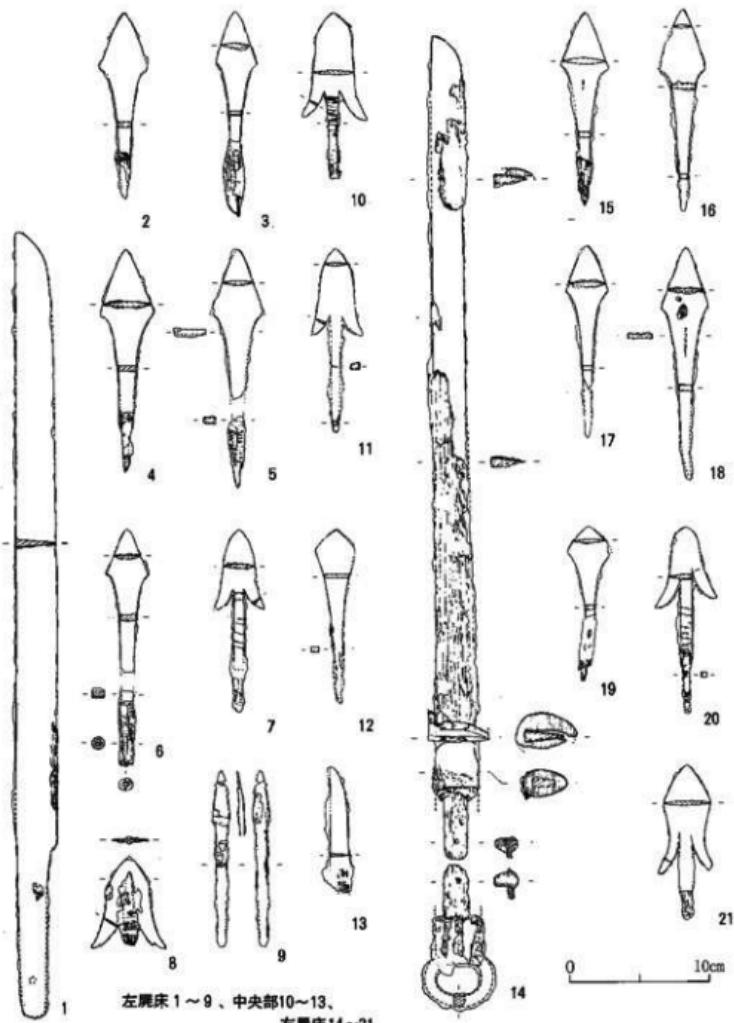


鐘形杏葉

一本木横穴出土遺物（Ⅱ）

(高千穂町道路詳細分布調査報告書より)

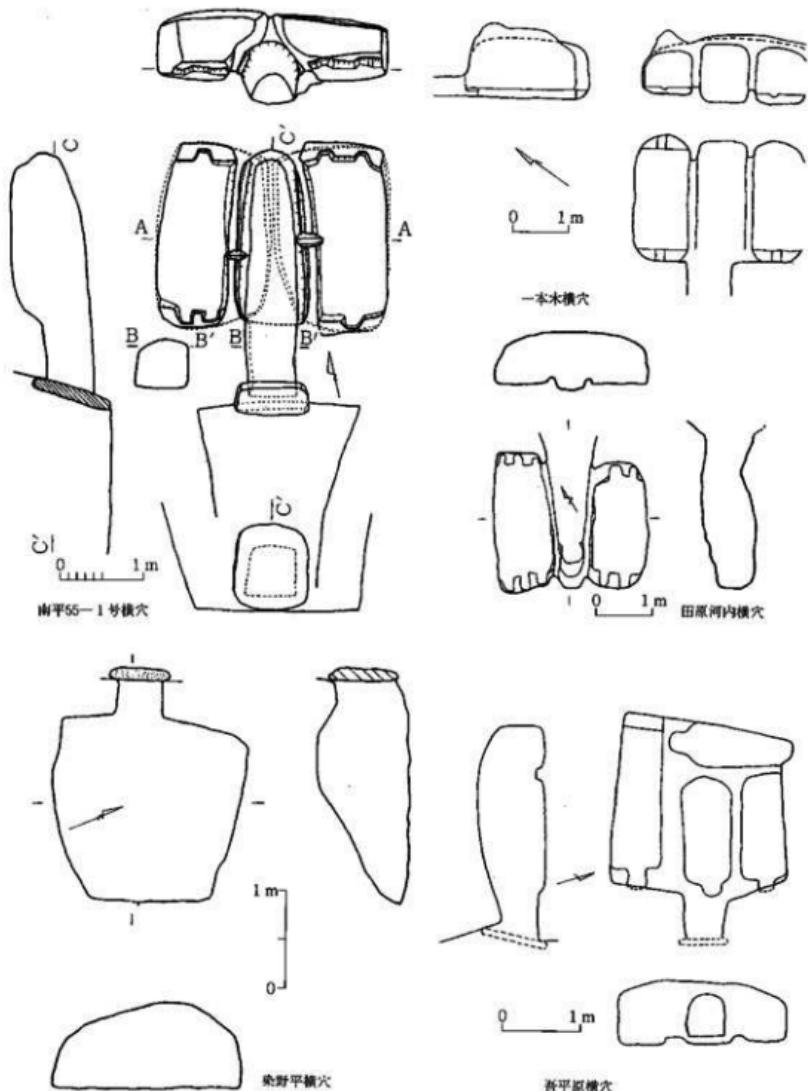




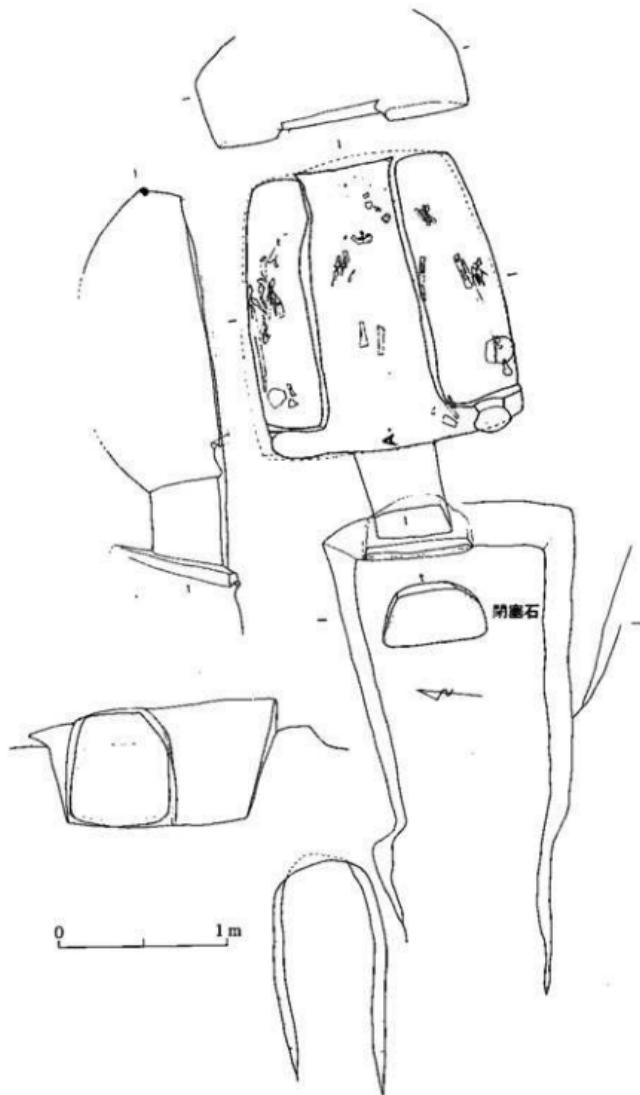
左端末1～9、中央部10～13。
右端末14～21

春姫登横穴墓出土副葬品実測図

(高千穂町文化財調査報告書第8集「春姫登横穴墓」より)



高千穂町内横穴集成図（縮尺不同）
(高千穂町遺跡詳細分布調査報告書より)



春姫登横穴墓

(高千穂町文化財調査報告書第8集「春姫登横穴墓」より)

高千穂町文化財調査報告書第9集

陣内遺跡保存整備報告書

発行年月 平成4年3月

編集・発行 高千穂町教育委員会

印刷 和田印刷所

